

令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析 羽曳野市立高鷺中学校

学力状況調査・・・【国語】

成果と課題

【成果】

- ・思考・判断・表現の読むことの項目において、わずかであるが、府平均を超すことができていた。そのため、朝学や授業などで文章を読んできた成果がでたと考えられる。
- ・登場人物の性格について問われる問題において、正答率が全国平均を上回っていた。国語の授業や普段の人との関りの中で、相手のことについて考えてきた成果が表れたと考える。

【課題】

- ・記述問題の無回答率が大阪府や全国に比べて高いことがわかる。
- ・漢字を文脈に即した形に直す問題の正答率が悪く、普段の定期テストでは覚えられる漢字が、長期記憶になると覚えられていないため、漢字の定着ができていないことがわかる。
- ・思考・判断・表現の書くことの項目において、府の正答率より約10%低いことがわかる。

これから指導の重点目標

- ・定期テストに向けた漢字勉強だけでなく、日常生活から漢字を正しく使えるように、小学生の内容からの復習が必要であることがわかった。そのため、漢字プリントを用いての復習をさせていきたい。
- ・書くことの割合が府より10%低いことから、普段から記述量が足りないことがわかった。授業では、タブレットを用いて自分の意見を書かせたり、振り返りシートを用いて、授業で学んだことの振り返りを書かせているが、まだ伸ばしきれていないことがわかった。今後は、意見を書かせて述べることを日頃から行っていきたい。
- ・知識の定着がまだできていないことが今回のテストでわかった。漢字だけでなく、知識・技能に関する問題を短期記憶ではなく、長期記憶にできるように普段から復習の実施をおこなっていきたい。

令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析 羽曳野市立高鷺中学校

学力状況調査・・・【数学】

成果と課題

【成果】

授業の最初に基礎的な計算問題に取り組んできたので、全国・府平均との差が少なくなっている、引き続きしていくことが重要である。

【課題】

問題の内容や何を解く・考えるのかについて長い文章で説明されている問題の正答率が低い。また、「関数」の分野での正答率が低く、基本的な知識の正答率の低さが顕著に見られた。文章を読み、理解する力、知識を整理する力が課題である。初見の問題を読み、求められているものを理解することや必要な知識や技能の習得も今後の課題と思われる。

これから指導の重点目標

- ・授業開始時に行っている基礎的な計算問題の演習は続けていく。
- ・授業内やテストでは、「文字式を用いた説明」「条件をもとにした証明」「文章をしっかり読み解かせる問題」を意識的に出題し、粘り強く問題に取り組む力を育てたい。
- ・3年間通して、関数の内容につながりを持たせた指導を行い、知識の習得や関数の理解に時間をかけて行う。

令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析 羽曳野市立高鷺中学校

学力状況調査・・・【理科】

成果と課題

【成果】

- ・難易度が5段階中1～2の問題において、全国や大阪府と比較すると正答率は低いものの、9割近くの生徒が正答しており、おおむね定着していることがわかる。
- ・理科が苦手な生徒が多い中、植物・動物の分野を得意とする生徒は比較的多く、動物に関連した問題において、全国・大阪府の正答率を上回ることができている。

【課題】

- ・IRTバンド（1～5段階）において、最高値の5を獲得した生徒が0であったことから、上位層もふくめて全体的に低学力であることがわかる。
- ・塩素の元素記号「Cl」を記述する問題において、「CL」「cl」等の誤答が多く、なんとなくは覚えているが正確に記憶できていない生徒が多いことがわかる。
- ・記述問題の無回答率が高いことがわかる。

これから指導の重点目標

- ・IRTバンド（5段階）の2・3に属する生徒が学年全体の73.8%であったことから、この層の生徒を1段階あげることができるように、各単元において基礎の指導の時間を増やすことを意識する。
- ・無回答率の低さは学校の定期テストでも目立っているので、日々の授業の最初に記述の基本練習を重ねることで、文章説明を書くことに慣れさせる。
- ・正確な暗記を苦手とする生徒が多いので、元素記号をはじめ、暗記項目を定着できるように取り組みを実施する。

令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析 羽曳野市立高鷺中学校

学習状況調査・・・【質問紙】

調査の概要（質問紙結果より一部抜粋）

1	朝食を毎日食べていますか。		
本校	大阪府	全国	
82.5	88.9	91.2	
大阪府・全国より肯定的割合が低い ⇒朝食をとらずに登校している生徒が多い。			

2	自分には、よいところがあると思いますか。		
本校	大阪府	全国	
86.0	84.0	86.2	
大阪府より肯定的割合が高い ⇒自分に自信のある生徒が多い。			

3	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。		
本校	大阪府	全国	
65.1	77.5	79.2	
大阪府・全国より肯定的割合が低い ⇒自分と違う意見について考えることが苦手。			

4	友達関係に満足していますか。		
本校	大阪府	全国	
83.7	90.5	91.4	
大阪府・全国より肯定的割合が低い ⇒友達関係で悩んでいる生徒が多い。			

5	学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。		
本校	大阪府	全国	
59.3	62.3	61.6	
1時間以上勉強している割合が、大阪府・全国より低い ⇒学校以外で勉強する習慣がついていない。			

6	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。		
本校	大阪府	全国	
46.5	48.0	57.9	
1時間以上勉強している割合が、大阪府・全国より低い ⇒休みの日に自分で勉強する習慣がついていない。			

7	学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。		
本校	大阪府	全国	
29.1	13.3	13.7	
1時間以上使用している割合が、大阪府・全国よりも高い ⇒タブレットで学習する習慣がついている。			

8	1,2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。		
本校	大阪府	全国	
71.8	46.0	53.2	
ほぼ毎日使用している割合が、大阪府・全国より高い ⇒タブレットを活用する習慣がついている。			

9	分からぬことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。		
本校	大阪府	全国	
66.3	78.0	77.5	
大阪府・全国より肯定的割合が低い ⇒分からぬことに対して、自ら動くことができていない。			

10	1,2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。		
本校	大阪府	全国	
67.4	76.6	77.7	
大阪府・全国より肯定的割合が低い ⇒課題解決に向けて、自分で考えて取り組むことが苦手。			

成果と課題

【生活について】

1が大阪府・全国より低い数値をとっていることから、基本的な生活習慣が身についていないことがわかる。2が全国と同じ程度、大阪府よりも高い数値をとっていることから、比較的自己肯定感は高い生徒が多いことが伺える。その一方で3、4の数値が大阪府・全国よりも低いことから、自分以外の異なる意見について考えることが苦手であり、友達関係に悩んでいることがわかる。考えの違う誰かと話し合い、協力するというよりは、友達の顔色を伺いながら生活している様子が見てとれる。

【学習について】

5、6の結果から、学校以外の場所で学習する習慣がついていないことがわかる。しかし7、8の結果から、タブレットを活用する習慣はついてきており、タブレットを活用した学習習慣は見られる。

学習する際の活動の様子としては、9、10から分からることに対して自ら動くことができないこと、これまで自分で考えて取り組んでこれていないことがわかる。こうしたことから、全体的に「考える」ということに対する抵抗、苦手意識があり、学び方を工夫することが苦手であることが伺える。

これからの指導の重点目標

【生活について】

自己肯定感は比較的高い生徒が多いが、考えの違う誰かと話し合い、協力するというよりは、友達の顔色を伺いながら生活している様子が結果から読み取れる。また、基本的な生活習慣が身についていない生徒が多い。学級活動を通して、考えの異なる他者と意見を交流することの楽しさ、他者とともに協力しながら達成感を感じられるような取り組みが必要となる。

【学習について】

学校以外での学習の習慣がついていないこと、「考える」ということに対して抵抗があること、学び方を工夫することが苦手であることが結果から読み取れる。タブレットを活用した学習習慣は身についていることから、タブレットを活用することで「考える」活動、家庭学習を充実させていくことが求められる。また、分からることに対して自ら動くことができないことから、主体的に学ぶ力が弱い、課題解決能力が低いことがわかる。そのため、学校としてのガイディングの徹底と、他者参照の場面を設けることで自分の分からることを解決していく、少しづつ自律的に学びを改善していく機会をとっていく必要がある。

